

第三回自治体こども計画策定ガイドライン検討のための有識者会議

1. 日時：令和6年2月14日（水）

2. 場所：オンライン会議

3. 出席者

（有識者）

吉永真理（昭和薬科大学薬学部臨床心理学研究室教授）

牧瀬稔（関東学院大学法学部地域創生学科教授、関東学院大学地域創生実践研究所所長）

園田三恵（滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局局長）

板東美明（北海道剣淵町住民課課長）

（こども家庭庁）

清原慶子（こども家庭庁長官官房総務課参与）

佐藤勇輔（こども家庭庁長官官房総合政策担当参事官）

新田義純（こども家庭庁長官官房総合政策担当付計画係参事官補佐）

万木尋己（こども家庭庁長官官房総合政策担当付企画調整係）

野村祐喜（こども家庭庁長官官房総合政策担当付計画係）

（事務局）

社会システム株式会社

4. 概要

（1）第二回会議の意見と対応

資料について説明

（2）ヒアリング結果について

資料について説明

（3）ガイドラインの素案について

- ・計画策定について、具体的な手法をもう少し明確に書いてたほうがいい
- ・複数の計画を一体的に策定するにあたって、各法令について必要な記載事項を具体的に明記できないか。このページを開いたら記載すべき事項がすぐ分かるようにしていただけるとありがたい。

- ・教育振興基本計画の内容をどのように変更する形で、連携とかどんな状況にあるのか、そういった具体的な手法等が今後ガイドラインには盛り込まれる予定なのか
- ・子どもにとって分かりやすい計画にすることについて具体的な方法を提示いただけないかと
- ・全体として文字が多い。できれば図のようなもので何か事例をもうちょっと分かりやすく書くとよい、もし書き切れないということであれば、例えば自治体のページに飛べるような URL みたいなものを示して、そこに飛ぶと自治体が出している図に行くことができる感じのほうが実利的。
- ・評価指標を設定すると、それを達成しようと思っていて、それをすることが仕事になってしまいがち。本来は事業を実施して何かしら成果を出すべきなのに、いわゆる PDCA を回すことが仕事になってしまっていますので、そこに縛られないということが文言であるといい。（評価することを目的化しないような書きぶりになるといい。）
- ・議員さんに質問されたときにこれを使って断るようなものがあつたほうがいい。議員さんから言われたときに、いやいや、ガイドラインにはこう書いてありますよ、だからこうやっているんだと逃げられたほうが職員的にはありがたい。
- ・計画の推進体制の在り方については章立てがなかったので、作成の体制だけではなくて、推進体制というのも計画の中には内容としては入ってくるので、それを置いたほうがいい。計画をつくって終わりではなくて、計画をつくったメンバープラスアルファが計画を推進していく地域の子ども計画実行体制をつくっていくとか、そんなイメージにしたほうがいいのかしらとも思いまして、行政も推進してから検証とか評価をすべきなので、もう少し推進体制は付け加えたほうがいい。
- ・小さな自治体についてはもうちょっと知りたい部分がある。
- ・子ども大綱がこうなっていますよから始まっているのですけれども、子ども基本法で基本理念が定められていて、その基本理念に即して区域内の子供施策を進める責務が地方自治体には規定をされていて、子ども大綱を勘案して自治体子ども計画をつくる努力義務とか子供施策をするときには子供や若者の声を反映する措置を講ずるという規定が定められていて、まずその基本理念とか子ども基本法のことを冒頭に書くとよい。
- ・子ども大綱の中身も、共通の基盤として子供・若者の参画とか意見反映というのも子ども大綱でもかなり大きく掲げています。実際子ども計画でどういう項目立てにするかというのは地域の実情がありますけれども、子供・若者の参画とか意見反映を計画するものにもちゃんと位置づけてほしいという気持ちはありますので、そうしたことが分かるように大綱のところの紹介でもそこはしっかりと書くとよい。
- ・第1章「自治体子ども計画の概要」となっているのですが、なぜ自治体子ども計画を策定しなければならないのかという趣旨とか、狙いとか、そういうことを記載した方がいい

以上